

デジタルキャンパスコンソーシアム



Digital Campus Consortium

第8次DCC総括 (2021～2023年度)

第8次DCCの目的

第8次DCCでは、これまでのDCCの活動の中で築いてきた基盤やノウハウを継承しながら、「産学共創によるニューノーマル時代の大学DX推進～未来を切り拓くスマートキャンパス構想～」をテーマに活動を行います。

具体的には以下の4つの柱を掲げ、「With/Postコロナ時代における教育環境の整備等」を目指します。

- 1. 教育・研究・業務運営における快適で安定したICT利用環境の実現**
- 2. ニューノーマル期における授業運営**
- 3. 学生・教職員とのバーチャル上の交流環境実現**
- 4. 学生・教職員・校友向けサービスの充実と新たな働き方の実現に向けたデジタル化促進**

1. 教育・研究・業務運営における快適で安定したICT利用環境の実現

(1) 5G や次世代Wi-Fi の展開を見据えた高品質・高信頼性を確保した キャンパスネットワーク

コロナ禍を機に、学生がキャンパスに自身のPCを持込むようになり、LMSを使ったオンデマンド授業やオンライン授業を受講するなど、学生の学内ネットワーク利用方法が変わりました。こうした状況の中、Wi-Fi6化を促進する等、キャンパスネットワークの確保を行いました。

(2) 多様化する学内ネットワーク利用に対するゼロトラスト・ セキュリティ対策

クラウド化や仮想化技術が進展し、また、BYOD端末による学内サービスの利用も増えつつあることから、境界なく「何も信頼しない」考え方で行うセキュリティ対策（ゼロトラスト）や、個々の利用者がアクセスする入口で対策を行うこと（エンドポイント）の重要性が増してきています。そこで、本学では自動化・仮想化技術を用いたネットワーク運用管理の仕組みを試験的に導入するなどの取り組みを進めました。

2. ニューノーマル期における授業運営

(1) オンライン授業の更なる深化に向けた取り組み

「ライトボード（透明版を活用して、学生と向き合った状態で板書を可能とするツール）」を早稲田・西早稲田・所沢各キャンパスの収録スタジオに導入し、利用教員に使用感や改善点のフィードバックを受けながら活用事例を増やしています。

ライトボードでは、板書を教員の姿で隠れることなく提示することで、数学や物理などの授業において計算過程を見せることができ、ライブ感のあるオンデマンド授業が可能となっています。

(2) 対面授業時のチャレンジングな教室デザイン

7号館306教室・308教室に、新たなICT機器の導入を行い、ハイフレックス授業（教室で行われる授業をZoom等でリアルタイム配信する授業）においてもアクティブラーニング型の授業や板書の多い授業を実施しやすくしました。ほとんどの授業が対面授業に戻っている現在においても、自動追尾カメラとZoomを用いて、授業の様子を収録し、LMSにアップすることで欠席者のフォローや復習に繋げることが可能な仕組みとなっています。

また、利用教員にアンケートやインタビューを実施し、利用者の声を聞くことで活用方法や改善点などを洗い出して、今後の教室整備の参考にしていこう予定です。

3. 学生・教職員とのバーチャル上の交流環境実現

コロナによって、キャンパス内への立ち入りが制限されたり、オンライン授業が増えることで、学生同士や学生と教職員との繋がりが希薄になることを防ぐために、「VR大隈講堂」を制作し、バーチャル上での交流環境を実現しました。

また、大学総合研究センターに「VRの教育への活用プロジェクト」を立ち上げ、実際のゼミやイベント等でVR大隈講堂を活用しています。

現在はほとんどの授業が対面となり、キャンパスに学生が戻ってきているため、バーチャル空間のニーズは落ち着いている状況ではありますが、今後もVRの活用方法について検討を進めて参ります。

4. 学生・保護者・校友・教職員に対するスマートなサービスの提供

(1) 各種手続きの電子化・自動化推進

ペーパーレスによる各種管理業務の効率化への試みとして、「経理処理の電子化」や「臨時雇用申請の電子化」、「証明書オンライン申請サービス」を実現しました。

また、Microsoft Power Platform(Forms、Power Automate、Power Apps等)や電子契約システム(DocuSign)を活用した職員業務の自動化・電子化を推進しました。

(2) 問題解決のセルフサービス化によるCX/EXの向上

利用者が必要な情報に容易に到達することができ、チャットボット等を活用しつつ課題の自己解決ができるように支援するための仕組みとして「ITサービスポータル」の構築を進めました。

また、CRM*を導入し、複数システムに分散して管理されていた問合せ履歴等のデータを集約し、利用者の様々なニーズに対応した支援サービスを実現することにより、利用者満足度の向上を目指しました。

*CRM: Customer Relationship Management (顧客の様々なデータをマーケティングや経営に役立てる仕組み)